

植 物

生きもの主な生育環境を表示しています。



- ▶ 山間部は、多くが植林地ですが、一部スダジイなどの常緑広葉樹林になっています。また、アオキなどの低木、シダ類、スマレ類など、多種多様な樹林を好む植物が見られます。こうした樹林内の植物は、草食性のシカと密接な関係があります。シカは、林内の植物を食べてしまうため、シカが多い地域では、食害による樹林環境の劣化が全国的に深刻な問題となっています。今ある豊かな樹林環境を維持していくために、シカが増え過ぎないようにすることは、とても重要ことと言えます。
- ▶ 山間部から平坦部には、水田、畑地、果樹園、市街地などの人の生業の影響を受けた環境が広がっています。こうした環境には、適度な草刈りによって維持されるチガヤなどの草地が見られ、その中には、ホタルブクロやスマレ類などの綺麗な花が咲く草本が多数生えています。こうした植物は、昆虫の吸蜜源、食草になるだけでなく、草地を好む生きもの大切なすみかとなっており、適度な草刈りなどの人の生業が、多種多様な植物、動物を育てていることがわかります。
- ▶ 小塩川、巨瀬川、美津留川などの水辺には、マコモやツルヨシなど、水中にはエビモなどの水草が見られ、こうした場所は、魚や甲殻類、水生昆虫の餌場、逃げ場、産卵場となり、水生動物の大切なすみかとなっています。

□ イチイガシ

(ブナ科)

Quercus gilva

常緑広葉樹。高さ30mに達する大木となり、葉裏に黄褐色の毛が密に生えます。実はアク抜き無しで食べられ、縄文時代の昔から食用とされてきました。ブナ科の樹木は、シジミチョウ科の蝶が食樹とし、果実は、多くの動物の餌資源となっています。

豆知識 「神聖な木」の意=齋檀(いちかし)がなまったもの、「よく燃える木」の意=最(いち)火(ひ)檀(かし)など諸説あります。



吊るした鐘のような姿が可愛い

□ スマレ類

(スマレ科)

Viola ssp.

花期 2-6月

多年草。山地、畑地、道端など、様々な環境に見られ、春を告げる花として親しまれます。紫色の印象が強いスマレですが、黄、青、白など様々な花色があります。日本は約50種程度知られており、スマレ王国と評されています。

豆知識 蕾の形が大工道具の墨入れ(=墨壺)に似ているところから、という説があります。

□ ホタルブクロ

(キキョウ科)

Campanula punctata

花期 6-7月

多年草。草原や林縁などに見られます。初夏、うつむいて咲く釣鐘型の花が美しく、茶花や観賞用に栽培されることも多い山野草です。花は2色あり、関東では赤紫色、関西では白色が多く見られます。ハナバチなどが蜜を吸いによく訪れます。

豆知識 袋のような形の花にホタルを入れて遊んだなど、諸説あります。このほか提灯花(ちょうちんばな)、トツカンバナと呼ぶこともあります。

💡 したたかな植物たち

植物は、動物に黙って食べられ、利用されるだけでしょうか? いいえ。したたかに動物を利用して種子を散布することで、分布を広げています。自由に移動できない植物にとって、種子を散布することは種の繁栄につながり、重要な意味を持つのです。種子散布には、風や水によって運ばれる風散布や水散布、動物に食べられたり、蓄えられて食べ残されたり、体に付着したりして運ばれる動物散布などがあります。うきは市をはじめ、日本全国で春に可愛らしい花を咲かせるスマレ類は、昆虫のアリによって種子が運ばれることで有名です。スマレ類の種子を観察すると、種子の基部に白い固まりが見られます。この白い部分は付属体(=エライオソーム)と呼ばれ、昆虫のアリが好む脂質や糖分などが含まれています。このような種子が落下するとアリを見つけ、種子ごと巣に持ち帰ります。アリは、付属体を食べた後に種子を巣の外へ捨てるので、スマレ類としては遠方への種子散布にまんまと成功するというわけです。



スマレの花

□ スダジイ (ブナ科)

Castanopsis cuspidata var. *sieboldii*



常緑広葉樹。高さ20m以上の高木となる暖地性照葉樹林を代表する樹種のひとつ。葉裏に淡褐色の鱗状毛が密に生え、光沢があります。ドングリは多くの動物の餌となるほか、アク抜き不要で食用となるため、人間にとっても昔は貴重な食料でした。

豆知識 人のかかわり
葉集の有馬皇子が詠んだ歌に、椎が登場します。椎(しひ)は古い呼び名で、古くから人のかかわりがあった植物です。

□ アザミ類 (キク科)

Cirsium ssp.

花期 5-11月



多年草または一年生草本です。日本には150種があり、そのうち145種以上が日本固有種です。葉や茎に鋭いトゲがあるのが特徴です。花の色は赤紫色や紫色が多く、吸蜜源として様々な昆虫が蜜を吸いに訪れます。写真はノアザミ。

豆知識 名前の由来
興ざめる、驚きあきれるという意味の「あざむ」がもとで、トゲの多さに驚きあきれることからなど、諸説あります。

□ マコモ (イネ科)

Zizania latifolia



多年草。河川や沼など水辺に群生します。たくて長い根茎が泥中に広がり、魚、エビ類、水生昆虫などの良いすみかとなります。新芽が肥大した部分はマコモタケといって中華料理、味噌和え、天ぷらなどに使われる美味しい食材です。

豆知識 人のかかわり
冬に害虫を駆除するため、松などの幹に巻く「こも巻き」も、かつてはマコモを材料に使っていました。

□ チガヤ (イネ科)

Imperata cylindrica var. *koenigii*

花期 5-6月



多年草。初夏に銀白色の穂を出します。サトウキビに近い種で、若い穂や地下茎は糖分を蓄えて甘くなり、昔は子供がおやつとして食べていました。ジャノメチョウ科、セセリチョウ科の蝶が食草とします。

豆知識 人のかかわり
チガヤは古くは茅(チ)と呼ばれ、花穂をチバナ、ツバナと呼びました。もち米を毬で巻いたちまきも、本来は「茅巻(ちまき)」でチガヤの葉で巻かれた食べ物でした。

□ 野菊類 (キク科)

Aster ssp.

花期 8-12月



キク科シオン属の主に多年草。花色は薄紫か白が多く、広くみられるノコンギクは古くから観賞用に栽培され、より紫色が鮮やかなコンギク、背が低く花の数が多いコマチギクもノコンギクの栽培品種です。吸蜜源として、様々な昆虫が訪れます。

豆知識 花の構造
キクの花はそれぞれ一つずつに見えますが、実は複数の小さな花の集まりからなるものです。

□ エビモ (ヒルムシロ科)

Potamogeton crispus



多年生の水草。河川、湖沼、ため池などに見られます。線形の縮れた葉が特徴です。水中で分枝して広がり、エビ、魚、水生昆虫のすみかや産卵場所になります。4~9月頃、水中から花茎が伸びてきて水面上で花が咲きます。

豆知識 名前の由来
葉の屈曲した形がエビに似ているため、エビがすむところにあることから、という説があります。

□ ウツボグサ (シソ科)

Prunella vulgaris ssp. *asiatica*

花期 6-8月



多年草。山野の草地に見られ、花が唇形、茎が四角く角張るのが特徴です。花穂(かすい)の形を、弓矢を入れる鞆(うつぼ)に見立てたことが名前の由来。花には様々な昆虫が訪れ、枯れた後も立ったまま残るので夏枯草の別名もあります。

豆知識 人のかかわり
乾燥させた花穂は煎じると利尿薬となり、古くから漢方薬、ハーブとして利用されています。

□ ツルヨシ (イネ科)

Phragmites japonica



多年草。河川の砂地や河原の水際などに見られ、地面をはうように枝分かれをし広がり、密生して生えます。茎や葉は小鳥の隠れ家、根本はヌマエビ類や水生昆虫のすみかとなります。根本の落ち葉が集積し、水生昆虫が集まります。

豆知識 名前の由来
地面を縛るように、枝分かれした匍枝の節から新しく根が出て根付くことから、ジシバリの別名もあります。

□ ササバモ (ヒルムシロ科)

Potamogeton maraianus



多年生の水草。河川、湖沼、ため池などに見られ、水の流れになびくようにゆらゆらと漂いながら生えます。水中で枝別れして広がり、エビ、魚、水生昆虫のすみかや産卵場所になります。水の少ない場所でも生きることができる水草です。

豆知識 名前の由来
細長い葉の形がササに似ていることから、という説があります。

☑ うきは市の生きものを見つけてみよう!